



創立30周年によせて

神奈川県知事 長 洲 一 二

神奈川県温泉地学研究所が創立30周年を迎えました。

これまで、あたたかく見守り、育ててくださった県民の皆さんをはじめ関係者の方々に心から感謝申し上げます。

温泉地学研究所は、創立以来今日まで温泉の保護はもとより、地震・火山の観測、地下水の保全などに、地方自治体ではわが国唯一の試験研究機関として、大きな役割を果たしてまいりました。

近年、切迫性が指摘されている神奈川県西部地震とハイテク産業の進出による地下水保全の必要性について社会的な関心が高まっていますが、この新たな課題の解決にも当研究所の役割が期待されているところです。

神奈川県では、21世紀に向け「活力と魅力あふれるかながわ・くにづくり」を目標とした「第二次新神奈川計画・改定実施計画」を今年度スタートさせました。この計画の主要施策の一つに安全・快適なまちづくりを掲げ、災害につよいまちづくり、大規模地震対策等を推進しています。

温泉地学研究所においても、神奈川県西部地震の発生に備え観測体制を充実強化し、地震予知研究調査を一層進めるとともに、地域の特性にあった地下水保全のための調査研究に取り組んでまいります。

30年の歴史を歩んできた温泉地学研究所が、これまでに蓄積した実績やノウ・ハウを充分生かしながら、神奈川の自然災害と地下環境を守る拠点となり、安全なまちづくりと快適な生活環境の確保に大きな力を発揮できるよう、皆さんのあたたかい御支援をお願い申し上げます。



創立30周年を迎えて

神奈川県環境部長 小野 達夫

神奈川県温泉地学研究所は、その前身である神奈川県温泉研究所の創設以来ここに30周年を迎えました。

振り返ってみますと、昭和36年10月に全国に先がけて発足した温泉研究所は、県民の健康と福祉の向上に役立てるため、貴重な地下資源である温泉の開発、保護について科学的な調査研究を開始しました。

その後、昭和46年に現在の地に独立した庁舎を新築し、昭和52年には温泉地学研究所と名称を改め、以来、諸情勢の変化や科学技術の進歩をふまえ、温泉ばかりでなく、地下水、地震、火山など地球内部の問題を対象として、貴重な地下資源の保全及び自然災害の防止に貢献してきたところであります。

最近の問題として、近い将来に発生が予想される神奈川県西部地震、先端技術産業に起因する地下水汚染、深度千メートル級の深層熱水の開発などがあります。

このように、対象とする問題が大規模化、複雑化の様相を呈するにいたっているときに、温泉地学研究所が過去の成果を振り返り、新たな将来を展望して、今後の発展を期すことは誠に意義深いものと考えます。

また、現在、これからの新しい時代の要請に応えられるよう、新庁舎の建設と組織及び業務全般にわたる再編整備を進めることにしていますが、これにより、本県の環境行政における科学的、技術的な側面のバックアップ態勢が飛躍的に向上できるものと考えております。

最後に、神奈川県温泉地学研究所を支えてくださった多くの方々に心から感謝しますとともに、今後とも皆さんの一層の御支援をお願いいたします。



発刊のことば

温泉地学研究所長 平野 富雄

温泉地学研究所は、その前身である温泉研究所が発足して以来、通算で30周年を迎えることができました。

この間、当所の業務を御理解いただき、御支援賜った方々、さらには環境行政にたずさわり、当所とともにこの困難な業務に従事された方々や当所職員として御努力いただいた先輩の方々に職員一同にかわり御礼申し上げたいと思います。

当所は、昭和36年に創設されて以来、温泉や地下水、地震活動等の研究調査を行い、県土の地質、地球物理、地球化学等のデータの集積と解明に努めてまいりました。

現在、県では県西部地震対策と地下水保全対策という、環境地学に関する行政課題を抱えております。

当所は、これらの課題についての的確・迅速に対応できる試験研究機関として貢献してまいります。

わたしたちは、よりよい県土、よりよい地下環境を子孫に残すために、地域の問題を地球的な視野で研究調査し、その成果を県民福祉の向上に役立てるよう努力いたします。

ここに、これまでの歩みを整理・編集することにより、現在の業務の位置づけを見定め、新たな時代へ向けての発想の糧といたたく、本誌を発刊した次第です。

皆様のより一層の御理解、御協力をお願いいたします。

目 次

あいさつ

創立30周年によせて	神奈川県知事	長洲 一二
創立30周年を迎えて	神奈川県環境部長	小野 達夫
発刊のことは	神奈川県温泉地学研究所長	平野 富雄

第1章 研究所の概史

第1節 研究所の沿革	(平野富雄)	1
第2節 年表	(大山正雄)	37

第2章 研究調査の30年

第1節 温泉部門	(大山正雄、石坂信之)	51
第2節 地震部門	(伊東 博、小鷹滋郎)	117
第3節 地下水部門	(長瀬和雄、横山尚秀、栗屋 徹)	159
第4節 地質部門	(杉山茂夫、小鷹滋郎、長瀬和雄)	207

第3章 資 料

第1節 運 営	(八巻和幸)	240
1 予算		240
2 研究調査用備品		250
第2節 職員歴	(松沢親悟)	259
第3節 研究成果	(棚田俊收)	264
1 共同研究		264
2 受託研究		265
3 依頼調査		268
4 研究所報告		269
5 学会口頭発表		297
6 学会誌および専門誌等掲載		303
7 博士学位取得者および論文題目		309
第4節 講習会	(棚田俊收)	310
第5節 研 修	(棚田俊收)	313
1 職員の国内外研修		313
2 海外研修生		315

編集後記